

大西英之

おおにし ひでゆき

大西脳神経外科病院 院長

兵庫県明石市大久保町江井島 1661-1 ☎ 078-938-1238

累積手術数(個人) 脳腫瘍 1,100 例、脳動脈瘤 1,500 例、脳血行再建術(頸動脈内膜剥離術、バイパス術等)1,200 例、脊椎・脊髄手術 500 例等(指導・助手を含む)。

手術数(個人) 脳腫瘍 63 例、脳動脈瘤 88 例、脳血行再建術 86 例(指導を含む)。

特色 日本医療機能評価機構認定病院、日本脳神経外科学会認定専門医訓練施設(A)、日本脳卒中学会研修教育病院の認定を受けた脳神経外科の専門病院で、24 時間 365 時間体制をとっている。脳卒中ケアユニット(SCU)、一般病棟入院基本料 7:1 を取得し、超急性期治療から高度医療を目指している。1.5 テスラ MRI 2 台を常時稼働させ超急性期検査を可能とさせている。最も手術困難な頭蓋底部腫瘍に対しても、頭蓋底外科手術手技に脳神経内視鏡を併用し、より低侵襲の手術を施行している。しびれ、肩こり、頭痛を主訴とする脊椎・脊髄病変や手根管症候群で代表される末梢神経障害に対しても、超音波速度検査等を施行し、適切な治療を心がけている。救急医療に関しては、救急隊と連携し「プレホスピタルレコード」を導入し、脳卒中のスクリーニングと超急性期治療を実践している。発症 3 時間以内の脳梗塞症例に対しての t-PA による血栓溶解療法に対しても実績が多い。http://www.onc.akashi.hyogo.jp

症例数・治療・成績 06 年の年間手術件数は 606 例で、脳腫瘍切除術 83 例、脳動脈瘤クランプ術 88 例、脳動静脈奇形切除術 8 例、頸動脈内膜剥離術 67 例、バイパス術 31 例、脳内血腫除去術 33 例、外傷性頭蓋内血腫除去術 118 例、脳室シャント手術等 26 例、脊椎・脊髄手術 28 例、脳血管内手術 20 例等である。未破裂脳動脈瘤に対しては、十分説明と同意の下に手術を施行しているが、死亡例はない。脳腫瘍に対しては手術用顕微鏡を用いて丁寧に精密な手術を心がけるとともに、5-ALA を用いての術中蛍光診断や ICG を用いての術中脳血管撮影により、切除範囲の向上と合併症予防に努めている。また、手術中各種コンピューターを用いて脳神経機能を観察したり、覚醒下手術を行い後遺症の防止に努め、優れた手術成績を残している。

診療 月～金。午前 9 時～12 時、午後 2 時～5 時。大西 = 金午前午後(要予約)。

レコード・オピニオンの受け方 主治医から紹介状と必要な資料を用意し予約してください。予約制。30 分で 10,000 円(保険対象外)。

経歴 1946 年兵庫県生まれ。71 年奈良県立医大卒。75 年北野病院、79 年国立大阪南病院医長、90 年大阪脳神経外科病院部長、96 年大阪警察病院部長、00 年大西脳神経外科病院院長。

所属学会・資格 日本脳神経外科学会(評議員・専門医)、日本脳卒中学会(評議員・専門医)、日本頭蓋底外科学会(理事)、日本脊髄外科学会(認定医)、医学博士。

著書・編集書・論文 Surgery of the intracranial venous system など 30 冊、Surgical management of cerebral aneurysms in comparison with endovascular treatment. など 220 編。

手術に際して心がけている点 ①手術を計画するに当たっては、その患者にとって何が最善か考える②手術前にイメージリハーサルを行い、3 次

元的解剖を理解しておく③手術の困難な箇所を想定し、その対処法を何通りも立てておく④最悪の事態を想定し、そうならない前に引き返すことを常に念頭に入れておく。

診療中に心がけている点 「誠実」の言葉を座右の銘に患者に最善の治療を行う。

名医の条件 ①患者とその家族の立場になって医療ができること②診断知識や医療技術を常に向上させる努力を継続していること。

趣味 登山、スキー。

特技 77 年大阪府山岳連盟カラコルム登山隊に参加、第 2 次アタックメンバーとしてタフルタム峰に初登頂。

私の健康法 ストレスをためないこと。

もし医師でなかったら... 人工衛星の打ち上げや宇宙開発の技師。